

適応能力

校長 滝口健二

風薫る5月。そちこちに鯉のぼりを見かける季節になりました。草木も3月から「こぶし」、「菜の花」、「サクラ」、「藤」、「ハナミズキ」と自分の出番をまって順番に咲き誇り、季節は先へ先へと巡っていきます。転勤してひと月が経とうとしています。緑町中学校での生活にもだいぶ慣れ、リズムが定着してきたところです。

それまでの環境と違う環境へと変化したときに、新たな環境に順応（じゅんのう）することを「適応」といい、そうした能力を「適応能力」といいます。生徒の皆さんも、学年が一つ上がったりクラスのメンバーが変わったりしたことで、環境の変化に順応し、適応能力を発揮しているところだと思います。特に1年生は初めての中学校生活、初めてのクラスと初めてづくしで、順応するのに大きなエネルギーを使ってきたと思います。もうだいぶ慣れてきたところでしょうか。「まだまだ慣れない」という人もあせらずゆっくりと身を任せながら、慣れていってこれればと思います。

さて新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちの生活様式は世界レベルで変化を余儀なくされています。まさに「環境」が変化しています。すごいと思うのは私たちの社会がこの変化にしっかり「順応」し、「適応」してきていることです。例えば企業では、リモートで会議を行い在宅で勤務をする形を整えたり、飲食業も宅配やお弁当サービスの環境が充実したりして、コロナ禍であっても「順応」し、なんとかして生き残るすべを模索しています。

学校教育においてもこれまで通りの様式が取れないならばと、行事をリモートで行い事前収録したものを取り入れながら各教室へ配信したり、感染対策を万全にして、無観客で規模を縮小しての合唱コンクールや体育祭を計画したりと、やれることを模索しながら「適応能力」を発揮しています。これからの社会を生き抜くうえで今、「〇〇的リテラシー」（情報等を正しく理解・分析して活用する能力）をもつことが求められています。「順応」し「適応」していくにはこうした力が必要なのですね。

コロナで嘆いて（なげいて）いても仕方ありません。今できることは何かをしっかりと見つけ、判断しピンチをチャンスに変えていく心を大切にしてください。